

「電気数学」 6-1 ドリル補充問題

1. $A=(x^2, y^2, z^2)$ の発散を求めなさい。 解) $2x+2y+2z$
2. $A=(xy, yz, z^2x)$ の発散を求めなさい。 解) $y+z+2xz$
3. $A=(y^2, z^2, zxy)$ の発散を求めなさい。 解) xy
4. $A=(xy^2, zy^2, zxy)$ の回転を求めなさい。 解) $(zx-y^2, -zy, -2xy)$
5. $A=(y-z, z-x, x-y)$ の回転を求めなさい。 解) $(-2, -2, -2)$

6-1 演習補充問題

1. 次のベクトル場の発散を求めなさい。

$$f(r)r$$

解)

$$r \cdot \nabla f(r) + f(r) \nabla \cdot r = r \cdot \nabla f(r) + 3f(r)$$

2. 次のベクトル場の回転を求めなさい。

(1) $\nabla \times \frac{\mathbf{i}}{2\pi r}$, ただし $\mathbf{i}=(i_x, i_y, i_z)$

(2) $\nabla \times \mathbf{r}$

解)

(1)

$$\nabla \times \left(\frac{i_x}{2\pi\sqrt{x^2+y^2+z^2}}, \frac{i_y}{2\pi\sqrt{x^2+y^2+z^2}}, \frac{i_z}{2\pi\sqrt{x^2+y^2+z^2}} \right) = \frac{1}{2\pi r^3} (i_z y - i_y z, i_x z - i_z x, i_y x - i_x y)$$

(2) 0

3. 次の問いに答えなさい。

(1) $\phi = cr$ について、 $\mathbf{r}(\theta) = (\cos \theta, \sin \theta, 0)$ で表される曲線 C 上の点(1,0,0)における方向微分係数を求めなさい。ただし、 \mathbf{n} をこの点における曲線 C の接線方向の単位ベクトルとして、方向微分係数は $\mathbf{n} \cdot \nabla \phi$ である。

(2) $A = 1/2 \mathbf{H} \times \mathbf{r}$ において $\text{div} A$ を求めなさい。但し、 \mathbf{H} は一定のベクトルとする。

(3) $\mathbf{f} = (-y-z)\mathbf{e}_x + (-x-y)\mathbf{e}_y + (z-x)\mathbf{e}_z$ は回転なしであることを示し、 \mathbf{f} はどのようなスカラー場の勾配となるか求めなさい。

解)

(1) (1,0,0)における接線方向は(0,1,0) $\nabla \phi = 3c \frac{\mathbf{r}}{r}$ $\nabla \phi \cdot (0,1,0) = 3c \frac{y}{r}$

(2) $\nabla \cdot \frac{\mathbf{H} \times \mathbf{r}}{2} = \frac{1}{2} (\mathbf{H} \cdot \nabla \times \mathbf{r}) = 0$

(3) $\nabla \times (-y-z, -x-y, z-x) = 0$

$\nabla\phi = (-y-z, -x-y, z-x)$ より

ϕ はx成分より $-yx-zx+c'$, y成分より $-xy-y^2/2+c''$, z成分より $z^2/2-xz+c'''$

$\phi = -yx-zx-y^2/2+z^2/2+c$: c はx,y,zに関係のない定数

6-2ドリル補充問題

(1) $\mathbf{F} = k \frac{1}{r^2} \mathbf{e}_r$ として $\int_C \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s}$ を経路 C に沿って点 A(1, 1, 1) から点 B(2, 2, 2) まで積分しなさい。

解) $d\mathbf{s} = (1, 1, 1)dt$ $\int_C \mathbf{F} \cdot d\mathbf{s} = \int_C k \frac{1}{3t^2} \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} (1, 1, 1) \cdot \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} dt = \frac{k}{2\sqrt{3}}$

(2) 曲面 $x^2+y^2+z^2=a^2$ の $z>0$ の半球面上で $\iint d\mathbf{S}$ を求めなさい。

解)

$$dS = a^2 \sin\theta d\theta \int_0^{2\pi} \sin\theta d\phi = 2\pi a^2$$

(3) 曲面 $x^2+y^2+z^2=a^2$ の $z>0$ の半球面上で $\iint \mathbf{r} \cdot d\mathbf{S}$ を求めなさい。

解)

$$a^3 \int_0^{\pi/2} \int_0^{2\pi} \sin\theta d\theta d\phi = 2\pi a^3$$

(4) 曲面 $x^2+y^2+z^2=a^2$ の球面上で $\iint \mathbf{r} \times d\mathbf{S}$ を求めなさい。

解)

$$\mathbf{r} \times d\mathbf{S} = 0$$

6-2演習補充問題

1. $\mathbf{f} = k \mathbf{r} / r^3$ について、半径 a の曲面上で積分し、 \mathbf{f} に関する泉の強さを求めなさい。

解) $4\pi k$

6-3 演習補充問題

1. $\mathbf{f} = P(x,y,z)\mathbf{e}_x + Q(x,y,z)\mathbf{e}_y + R(x,y,z)\mathbf{e}_z$ とし、 V を閉曲面 S で囲まれた領域を示す。次の式が成立することを証明しなさい。

$$\iiint_V \left(\frac{\partial P}{\partial x} + \frac{\partial Q}{\partial y} + \frac{\partial R}{\partial z} \right) dx dy dz = \oiint_S (P dy dz + Q dz dx + R dx dy)$$

解)
$$\iiint_V \nabla \cdot \mathbf{f} dx dy dz = \oiint_S \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S}$$

$$\iiint_V \left(\frac{\partial P}{\partial x} + \frac{\partial Q}{\partial y} + \frac{\partial R}{\partial z} \right) dx dy dz = \oiint_S (P dy dz + Q dz dx + R dx dy)$$

2. 閉曲面 S が原点 O に対して作る立体角を O が S の内部にある場合と外部にある場合に分けて求めなさい。

解)
$$\iiint_V \nabla \cdot \left(\frac{\mathbf{r}}{r^3} \right) dx dy dz = \oiint_S \frac{\mathbf{r} \cdot d\mathbf{S}}{r^3}$$

原点 O が閉曲面の外側にあるとき、 $\nabla \cdot \left(\frac{\mathbf{r}}{r^3} \right) = 0$ より 0

原点が内側にあるとき、 4π

3. 水の流れを考えている空間中に泉があるとき、連続の方程式は、

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} + \operatorname{div} \mathbf{v} = q$$

となることを証明しなさい。ただし、 q は泉の強度、 ρ は水の密度とする。

解)

閉曲面 S に囲まれた任意の領域における質量は

$$\iiint_V \rho dx dy dz$$

単位時間に面積要素を横切る流体の体積は $\rho \mathbf{v} \cdot d\mathbf{S}$

$$\iiint_V \rho dx dy dz - \frac{\partial}{\partial t} \oiint_S \rho \mathbf{v} \cdot d\mathbf{S} = Q$$

V を無限小にもってゆくと

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} + \operatorname{div} \mathbf{v} = q$$

$$\nabla \cdot \rho + \frac{\partial \rho}{\partial t} = 0$$

$$\iiint_V \nabla \cdot \mathbf{f} dx dy dz = \oiint_S \mathbf{f} \cdot d\mathbf{S}$$

6-4 演習補充問題

1. 次式（グリーンの公式）を証明しなさい。

$$\iiint_V \{\phi \nabla^2 \psi - \psi \nabla^2 \phi\} dV = \iint_S \left\{ \phi \frac{\partial \psi}{\partial \mathbf{n}} - \psi \frac{\partial \phi}{\partial \mathbf{n}} \right\} dS$$

$\nabla \psi$ にガウスの法則を適用

$$\iiint_V \nabla^2 \psi dV = \iint_S \nabla \psi \cdot d\mathbf{S}$$

解答) $\nabla \psi = \frac{\partial \psi}{\partial \mathbf{n}}$ である。(∵ $d\psi = \nabla \psi \cdot \mathbf{n}$)

$$\phi \text{ をかけて } \iiint_V \phi \nabla^2 \psi dV = \iint_S \phi \frac{\partial \psi}{\partial \mathbf{n}} \cdot d\mathbf{S}$$

Ψ と ϕ を逆にしたものとあわせて、問題の公式が成り立つことが分かる。

6章ワークシート補充問題

問題1 電磁気学では磁場 \mathbf{H} 、電場 \mathbf{E} 、電束密度 $\mathbf{D}=\epsilon\mathbf{E}$ 、磁束密度 $\mathbf{B}=\mu\mathbf{H}$ 、電荷密度 ρ について、以下の基礎方程式が成り立つ。

$$\nabla \times \mathbf{H} - \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} = \mathbf{i} \quad (\text{a})$$

$$\nabla \times \mathbf{E} + \frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} = 0 \quad (\text{b})$$

$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \rho \quad (\text{c})$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0$$

(d)

が成り立つ。 ϵ および μ は誘電率および透磁率と呼ばれる定数である。以下の間に答えなさい。

(1) $\mathbf{B} = \nabla \times \mathbf{A}$ として $\mathbf{E} = -\nabla \phi - \frac{\partial \mathbf{A}}{\partial t}$ が成り立つことを示しなさい。但し ϕ はスカラー量である。

(2) $\mathbf{A}' = \mathbf{A} + \nabla \chi$ も $\mathbf{B} = \nabla \times \mathbf{A}$ を満足することを示し、このとき ϕ を χ を用いて示しなさい。

(3) $\mathbf{D} = \epsilon \mathbf{E}$ 、 $\mathbf{B} = \mu \mathbf{H}$ として $-\nabla^2 \phi - \nabla \cdot \frac{\partial \mathbf{A}}{\partial t} = \frac{1}{\epsilon} \rho$

が得られることを証明しなさい。

(4) $\nabla \cdot \mathbf{A} + \epsilon \mu \frac{\partial \phi}{\partial t} = 0$ として、(3)の式から \mathbf{A} および ϕ の2階の微分方程式を求めなさい。

問題2

$\mathbf{E} = \mathbf{E}_0 \exp(j\mathbf{k} \cdot \mathbf{r})$ について以下の間に答えなさい。

(1) $\nabla \cdot \mathbf{E}$ 、 $\nabla \times \mathbf{E}$ をもとめなさい。

(2) (1)は \mathbf{E} に対して演算子はどのような演算を行っていると考えられるか、 \mathbf{k} を用いて示しなさい。

(3) $\nabla \cdot \mathbf{E} = 0$ が与えられているとき \mathbf{E}_0 と \mathbf{k} の関係を求めなさい。

問題 3

$E = k \frac{1}{r^3} \mathbf{r}$, $r = \sqrt{x^2 + y^2}$ として, 以下の間に答えなさい。

- (1) 積分 $\phi = \int_{\infty}^r E \cdot d\mathbf{r}$ を求めなさい。
- (2) この E にガウスの定理を適用して電場の強さを求めなさい。
- (3) この直線上における ϕ の動径方向 \mathbf{n} への方向微分係数 $\nabla \phi \cdot \mathbf{n}$ を表しなさい。

問題 4 図のように直線上に電流 i が流れている。この電流の周りの磁場を考える。次の問いに答えなさい。

- (1) この直線電流から距離 r の位置における磁場 \mathbf{H} は $\mathbf{H} = \frac{i}{2\pi r} \mathbf{e}_\phi$ と与えられる。 \mathbf{e}_ϕ は半径 r の円の接線方向の方位ベクトルである。半径 r の円を積分経路としてストークスの法則を利用して $\iint \nabla \times \mathbf{H} \cdot d\mathbf{S}$ を求めなさい。

$$(2) \mathbf{A} = \frac{1}{4\pi} \int_V \frac{\mathbf{i}(\mathbf{r}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|} dV'$$

但し、 $|\mathbf{r} - \mathbf{r}'| = \sqrt{(\mathbf{r} - \mathbf{r}')^2}$ である。

\mathbf{A} の回転を求めなさい。

- (3) $\mathbf{A} = \frac{1}{2} \mathbf{H} \times \mathbf{r}$ とすると、 $\mathbf{B} = \nabla \times \mathbf{A}$ が成立することを示しなさい。

問題 5

座標の取り方を一般の xyz 直交直線 3 次元 (カルテシアン) 座標系から直交曲線座標系といわれる座標系に変換する。図のように円筒形で (r, ϕ, z) の座標を定義する。ベクトルも同様に示し、それぞれの成分の単位ベクトルを \mathbf{e}_r 、 \mathbf{e}_ϕ 、 \mathbf{e}_z 、は図のようにお互いに直交するようにとる。

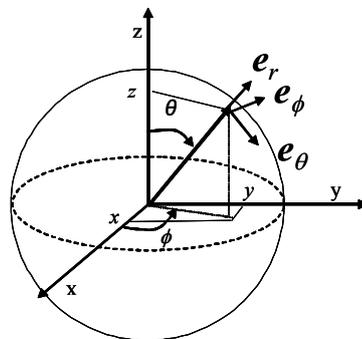
- (1) カルテシアン座標系における座標 x, y, z を r, ϕ, z を用いて示しなさい。

$$(2) \frac{\partial x}{\partial r}, \frac{\partial x}{\partial \theta}, \frac{\partial x}{\partial z} \text{ を求めなさい。}$$

- (3) $d\mathbf{r}$ の x 成分、 y 成分、 z 成分を r, θ, z を用いて表しなさい。

$$(3) \mathbf{a}_r = \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial r}, \mathbf{a}_\theta = \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial \theta}, \mathbf{a}_z = \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial z}, \text{ を用いて表しなさい。}$$

- (4) 勾配、発散、回転を r, ϕ, z を用いて表しなさい。但し、ベクトル量については \mathbf{a}_r 、 \mathbf{a}_ϕ 、および \mathbf{a}_z 成分について表現しなさい。



【解答】

問題 1

(1) $\mathbf{B} = \nabla \times \mathbf{A}$ を (b) に代入

$$\nabla \times \mathbf{E} + \frac{\partial \nabla \times \mathbf{A}}{\partial t} = 0$$

この回転をとり、回転なしの場合はあるスカラー関数の勾配であらわされる。

$$\mathbf{E} + \frac{\partial \mathbf{A}}{\partial t} = -\nabla \phi$$

(2) $\nabla \times \nabla \chi = 0$ を用いる。

(3)

$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \rho$$

$$\nabla \cdot \mathbf{E} = \frac{1}{\varepsilon} \rho \quad \text{を用いる。}$$

(4) $\nabla \cdot \mathbf{A} + \varepsilon \mu \frac{\partial \phi}{\partial t} = 0 \quad \mu \mathbf{H} = \nabla \times \mathbf{A}$

$$-\nabla^2 \phi + \varepsilon \mu \frac{\partial^2 \phi}{\partial t^2} = \frac{1}{\varepsilon} \rho$$

問題 2

(1) $\nabla \cdot \mathbf{E} = \nabla \cdot (\mathbf{E}_0 e^{jk \cdot r}) = jk \cdot \mathbf{E}_0 e^{jk \cdot r}$

$$\nabla \times \mathbf{E} = \nabla \times (\mathbf{E}_0 e^{jk \cdot r}) = jk \times \mathbf{E}_0 e^{jk \cdot r}$$

(2) $\nabla = jk$

(3) $\mathbf{E}_0 \perp k$

問題 3

(1) $-k \frac{1}{r}$

(2) $4\pi k$

(1) 方向微分係数 $\nabla \phi \cdot ds$

$$-\frac{1}{r^3} r \cdot dr$$

問題 4

(1) $\iint_S \nabla \times \mathbf{H} \cdot ds = \int_C \mathbf{H} \cdot ds$ より求める。こたえは \mathbf{i}

(2) $\frac{1}{4\pi} \iiint_{V'} \frac{\mathbf{i}(\mathbf{r}') \times (\mathbf{r} - \mathbf{r}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|^3} dV'$

$$(3) \nabla \times \mathbf{A} = 1/2 \nabla \times (\mathbf{H} \times \mathbf{r})$$

$\nabla \times (\mathbf{H} \times \mathbf{r}) = \mathbf{H} \nabla \cdot \mathbf{r} - \mathbf{r} (\nabla \cdot \mathbf{H}) + (\mathbf{r} \cdot \nabla) \mathbf{H} - (\mathbf{H} \cdot \nabla) \mathbf{r}$ を用いる。

問題 5

(1) 図のように極角 θ と方位角 ϕ を媒介変数とすると

$$\mathbf{r}(\theta, \phi) = r \sin \theta \cos \phi \mathbf{e}_x + r \sin \theta \sin \phi \mathbf{e}_y + r \cos \theta \mathbf{e}_z$$

となる。ここで $0 \leq \theta \leq \pi$, $0 \leq \phi \leq 2\pi$ である。

(2)

$$\frac{\partial x}{\partial r} = \sin \theta \cos \phi, \quad \frac{\partial y}{\partial r} = \sin \theta \sin \phi, \quad \frac{\partial z}{\partial r} = \cos \theta$$

$$(1) \quad x: \sin \theta \cos \phi dr + r \cos \theta \cos \phi d\theta - r \sin \theta \sin \phi d\phi$$

$$y: \sin \theta \sin \phi dr + r \cos \theta \sin \phi d\theta + r \sin \theta \cos \phi d\phi$$

$$z: \cos \theta dr - r \sin \theta d\theta$$

$$(3) \quad \mathbf{a}_r = \sin \theta \cos \phi \mathbf{e}_x + \sin \theta \sin \phi \mathbf{e}_y + \cos \theta \mathbf{e}_z \quad \mathbf{e}_x = \sin \theta \cos \phi \mathbf{a}_r + \sin \theta \sin \phi \mathbf{a}_\phi + \cos \theta \mathbf{a}_\theta$$

$$\mathbf{a}_\theta = r \cos \theta \cos \phi \mathbf{e}_x + r \cos \theta \sin \phi \mathbf{e}_y - r \sin \theta \mathbf{e}_z \quad \mathbf{e}_\theta = \cos \theta \cos \phi \mathbf{a}_r + \cos \theta \sin \phi \mathbf{a}_\phi - \sin \theta \mathbf{a}_\theta$$

$$\mathbf{a}_\phi = -r \sin \theta \sin \phi \mathbf{e}_x + r \sin \theta \cos \phi \mathbf{e}_y \quad \mathbf{e}_\phi = \sin \theta \cos \phi \mathbf{a}_r + \sin \theta \sin \phi \mathbf{a}_\theta$$

$$(4) \quad \nabla \Psi = \left(\frac{\partial}{\partial r} \mathbf{a}_r + \frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial \theta} \mathbf{a}_\theta + \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \phi} \mathbf{a}_\phi \right) \Psi$$

$$\nabla \cdot \mathbf{A} = \frac{1}{r^2} \frac{\partial}{\partial r} (r^2 A_r) + \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \theta} (\sin \theta A_\theta) + \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \phi} A_\phi$$

$$\nabla \times \mathbf{A} = \frac{1}{r \sin \theta} \left[\frac{\partial (\sin \theta A_\phi)}{\partial \theta} - \frac{\partial A_\theta}{\partial \phi} \right] \mathbf{a}_r + \frac{1}{r} \left[\frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial A_r}{\partial \phi} - \frac{\partial (r A_\phi)}{\partial r} \right] \mathbf{a}_\theta + \frac{1}{r} \left[\frac{\partial (r A_\theta)}{\partial r} - \frac{\partial (A_r)}{\partial \theta} \right] \mathbf{a}_\phi$$